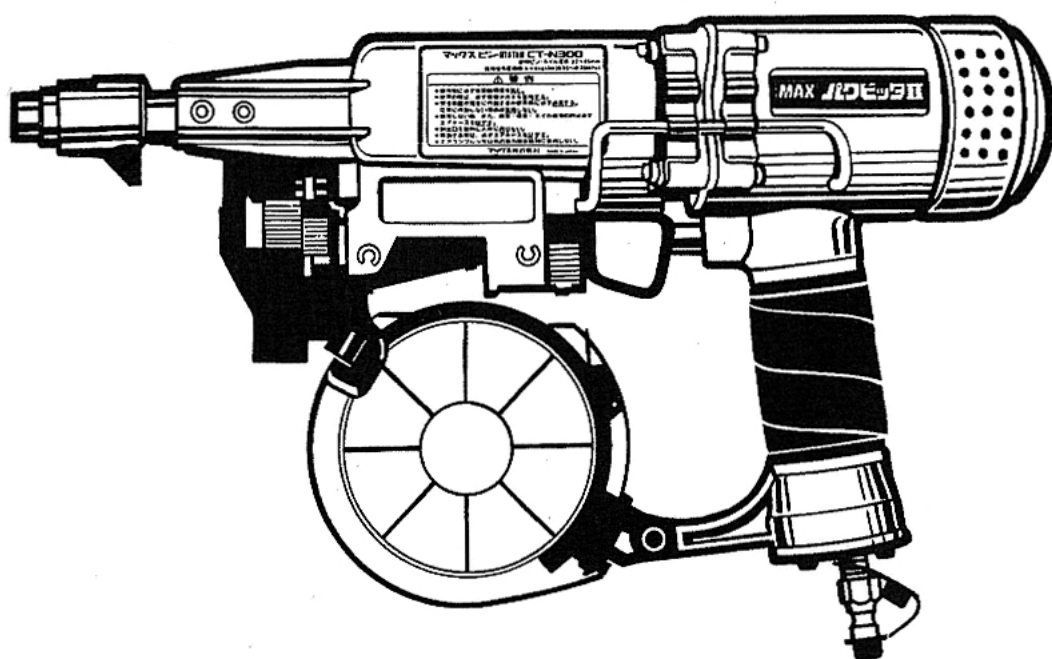


マックスピン・釘打機 パワピッタII

CT-N300

取扱説明書



⚠ 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
- 安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
- 打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
- 射出口を絶対に人体に向けない。
- 移動する時、使用しない時、調整・修理・ピン（又はネイル）装填の時は必ずエアホースをはずす。
- エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。

- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

MAX®

このたびは、マックスピン・釘打機パワピッタⅡCT-N300をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

⚠ 警告： この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。

⚠ 注意： この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

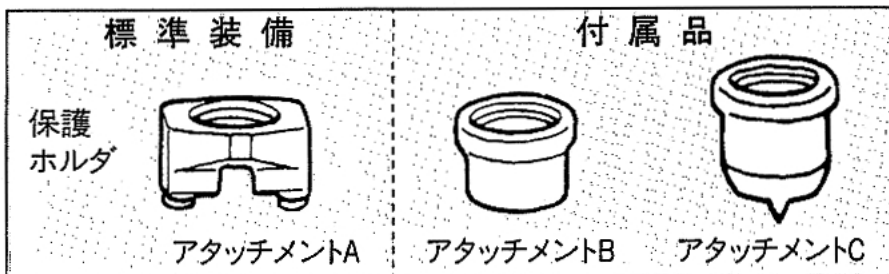
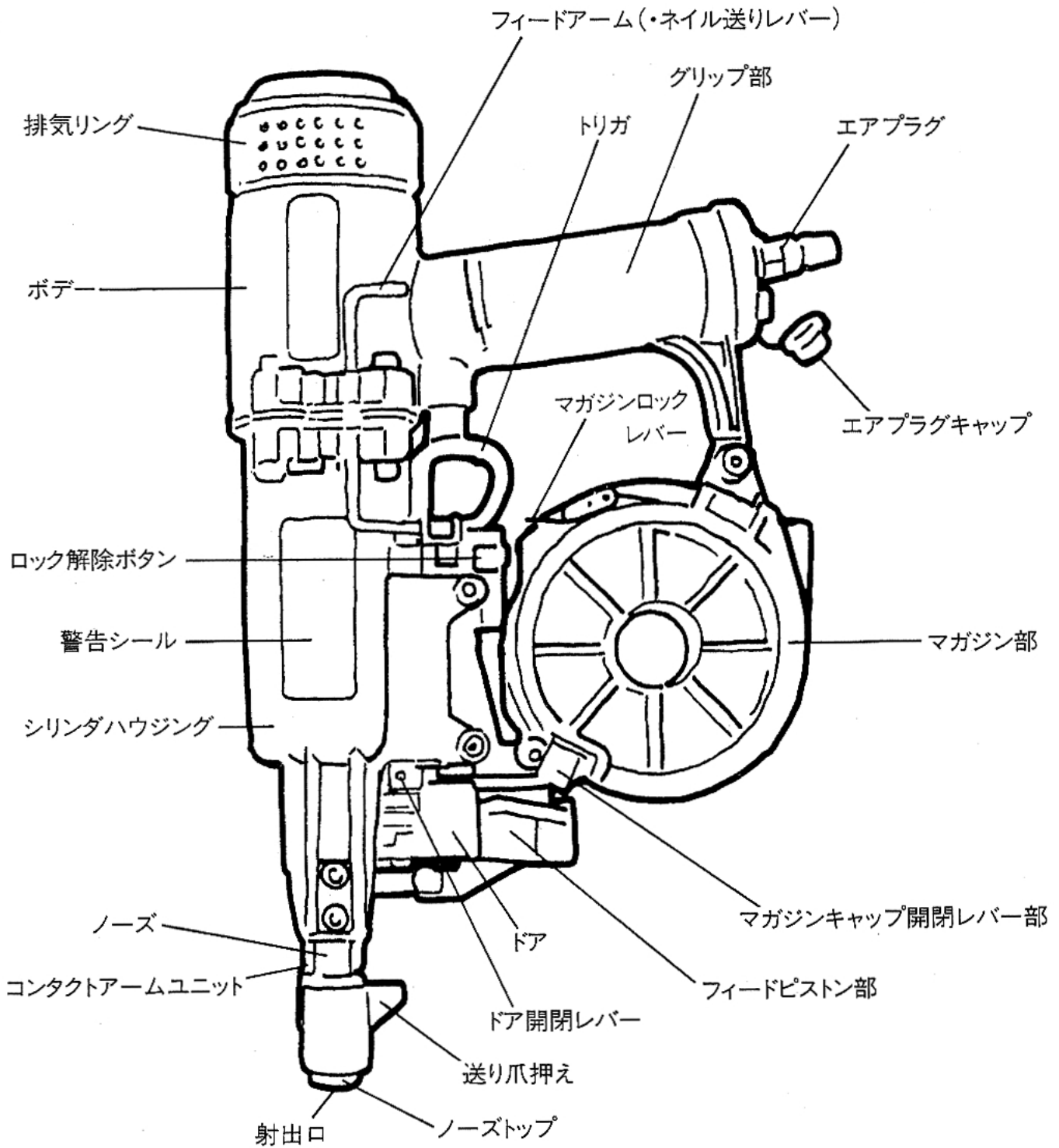
また、取扱いを誤った場合には、釘打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

目 次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	2
3. 安全装置について	10
4. 仕様及び付属品	12
5. 用途とピン、ネイル選定基準	14
6. ご使用の前に	15
7. 使用方法	18
8. 配管についての注意	23
9. エアホースの接続	24
10. ピン、ネイルづまりの直し方	25
11. 性能を維持するために	26
12. トラブル時の確認事項	28
13. 保証、アフターサービス、補修用性能部品について	29

全国販売拠点、サービス拠点一覧

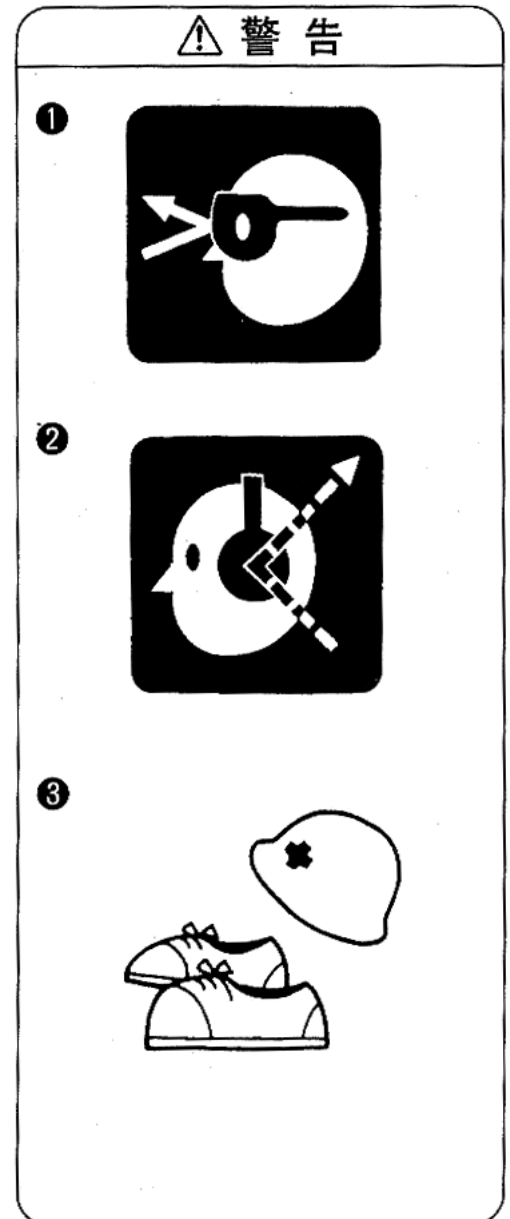
各部の名称



本機は、コンクリートに薄鋼板（0.6～0.8mm厚）または木材を接合する用途に、それぞれピン（またはネイル）を打ち込むことを目的とした空気工具です。指定以外の用途、使用法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

- ①使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
釘打作業をする時、打ち損じのピン（又はネイル）がはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。
- ②防音保護具を着用する。
釘打作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。
- ③作業環境に応じた防具を着用する。
作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。



④エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームがスムーズに動くか。

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

⑤エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

⑥エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1. トリガに指をかけない。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を人体に向けない。

警告

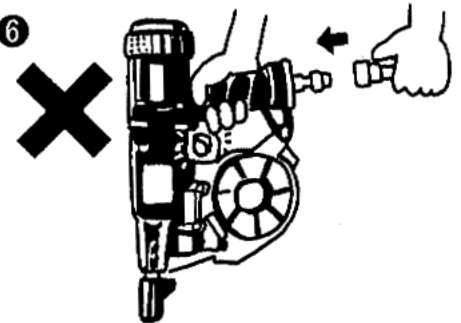
④



⑤



⑥



⑦エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはピン（又はネイル）を装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がある場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

⑧安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ピン（又はネイル）を装填しないでエアホースを接続して確認してください。

（10ページ参照）

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がある。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がある。

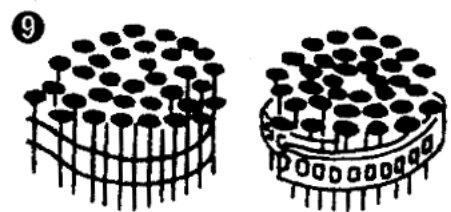
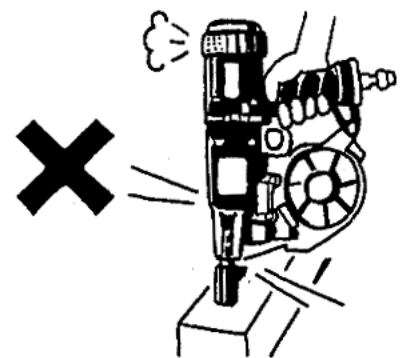
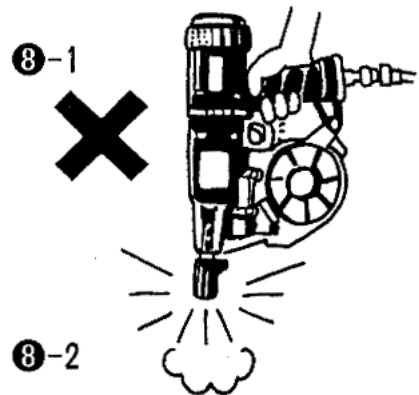
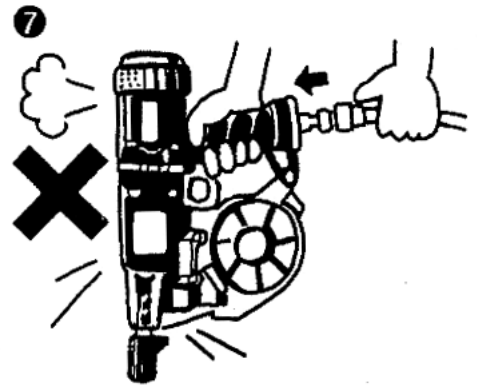
異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

⑨指定ピン（又はネイル）を必ず使用する。

指定されたピン（又はネイル）と異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のピン（又はネイル）をご使用ください。

（13ページ参照）

⚠ 警告



2

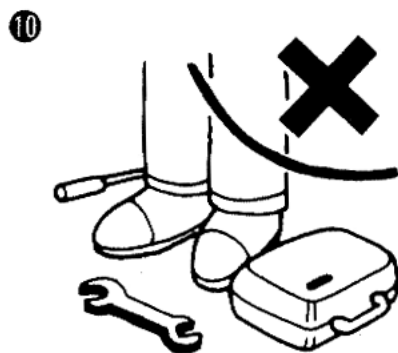
警告

安全作業のために

⑩作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

警告

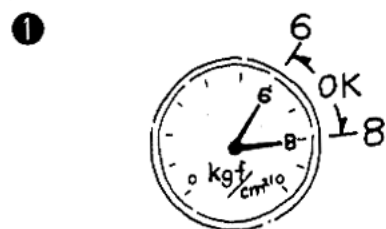


作業中

①使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は6~8kgf/cm² (0.59~0.78 MPa)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。8kgf/cm² (0.78MPa)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

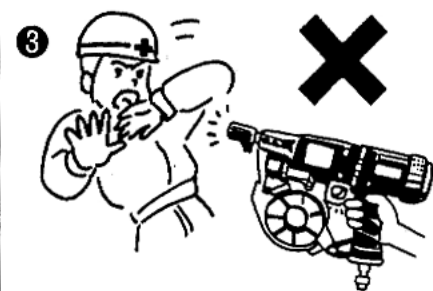
警告

②打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

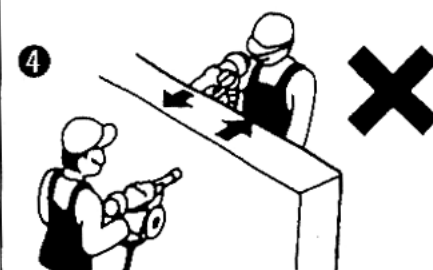
トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ピン（又はネイル）を打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

③射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたピン（又はネイル）が人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。

④向い合わせの釘打ちは絶対にしない。

向い合って釘打作業をすると、打ち損じたピン（又はネイル）が前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせの釘打ちは絶対にしないでください。



⑤ 射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったピン（又はネイル）や木の節などに当たった場合ピン（又はネイル）がはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

⑥ 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとピン（又はネイル）打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

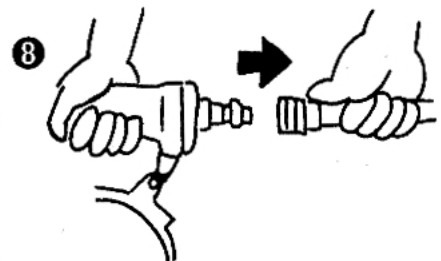
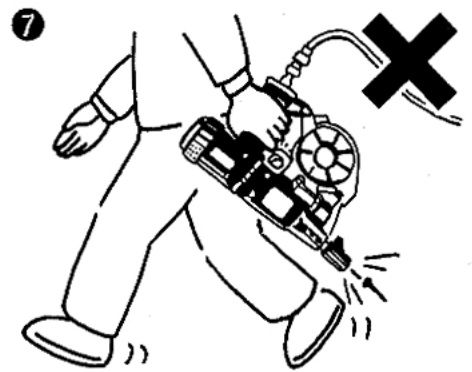
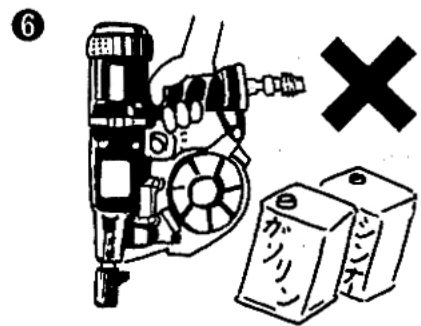
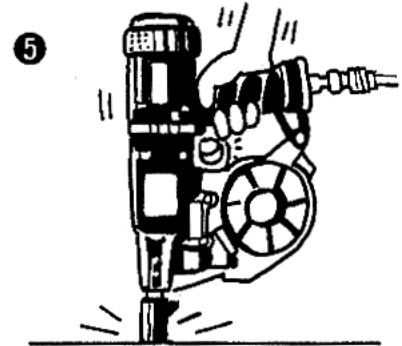
⑦ 移動する際は、必ずトリガから指をはなし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、必ずトリガから指をはなし、エアホースをはずしてください。

⑧ 作業中断時は必ずエアホースをはずす。

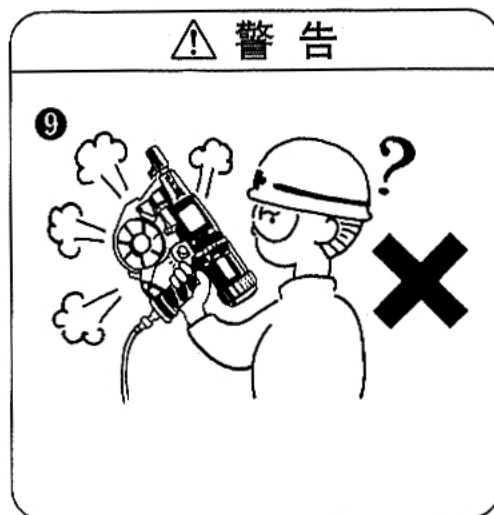
作業中のピン（又はネイル）装填、調整及びピン（又はネイル）づまりを直すときは誤ってピン（又はネイル）を発射すると危険ですから、必ずエアホースをはずしてください。

⚠ 警告



⑨ 異常を感じたら絶対に使用しない。

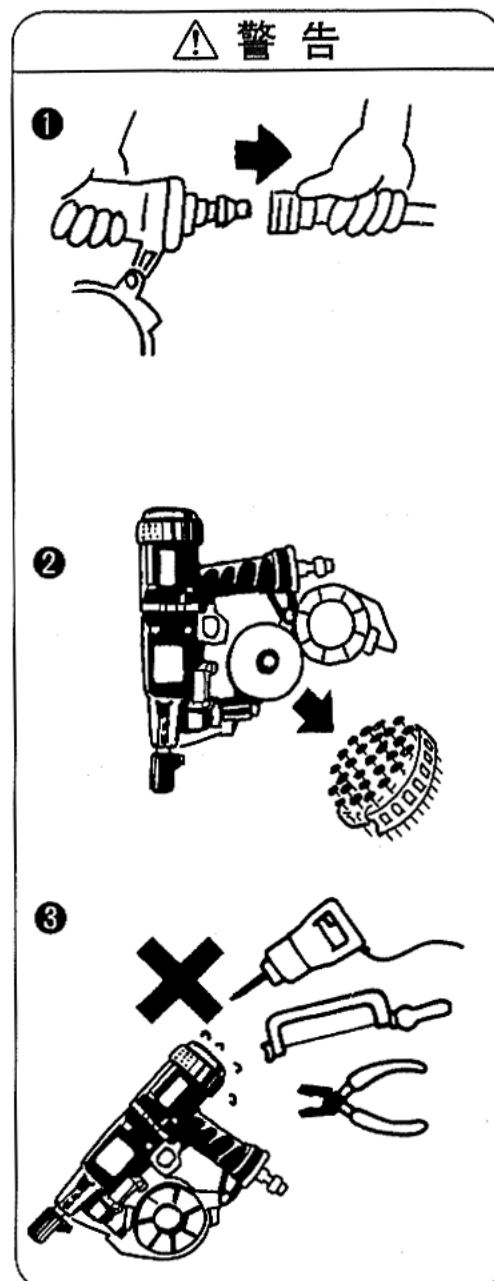
作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。



作業後

① 作業終了時には必ずエアホースをはずす。

作業終了時には、必ずエアホースをはずしてください。



② 作業終了時には必ずピン（又はネイル）を抜き取る。

ピン（又はネイル）をマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のピン（又はネイル）を抜きとってください。

③ 本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

屋外作業について

①足場の安全性を十分に確認する。

足場を使つての高所作業の場合、釘打作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

②エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

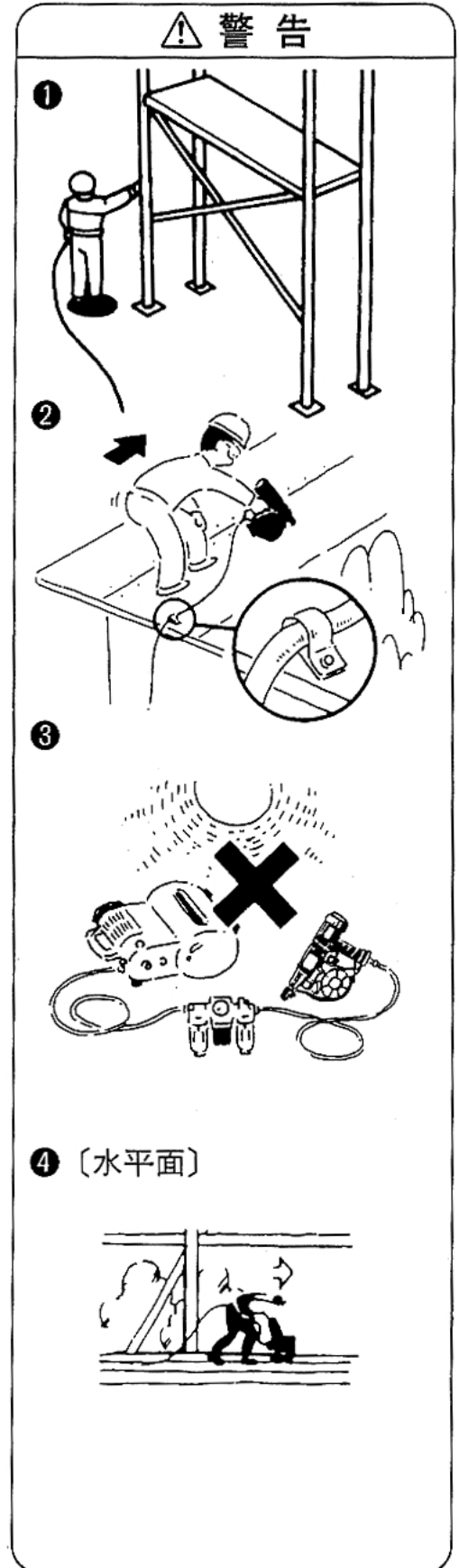
③直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

④水平面の釘打ち

前進姿勢で釘打作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。



2

⚠ 警告

安全作業のために

⑤ 垂直面の釘打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へ釘打作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。

⑥ 傾斜面の釘打ち

下から上に向かって前進姿勢で釘打作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

⚠ 警告

⑤ [垂直面]



⑥ [傾斜面]



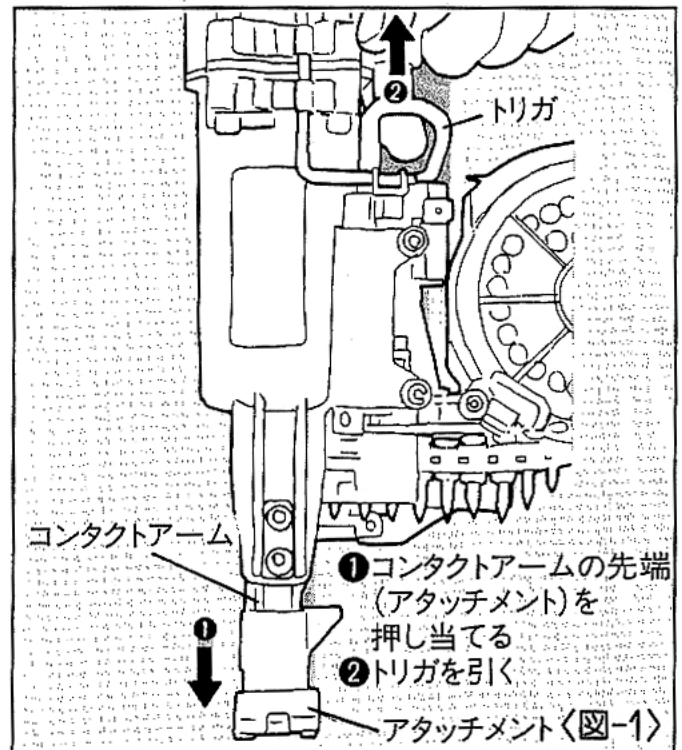
3

安全装置について

釘打作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置

これは①コンタクトアーム、そして②トリガの順に作動させないとピン（又はネイル）を発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけのときや、コンタクトアームを打込対象物に当てただけのとき、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させたときはピン（又はネイル）は発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いたときのみピン（又はネイル）は発射されます。 〈図-1〉



⚠ 警告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ピン（又はネイル）を装填しないでエアホースを接続して確認してください。

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がる。
2. コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がる。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

— MEMO —

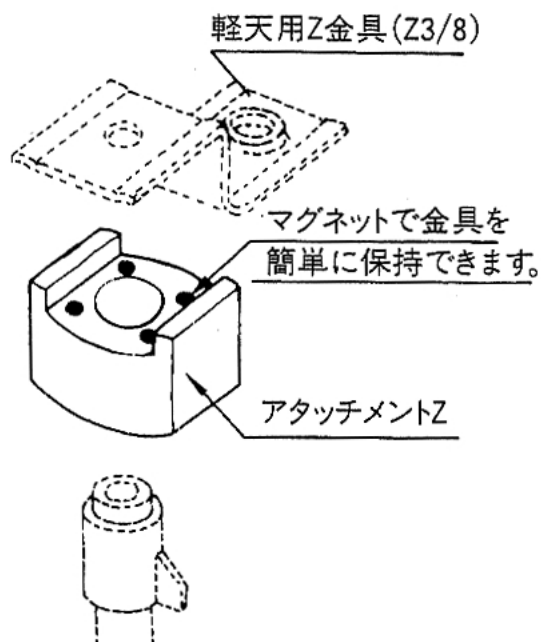
A series of 20 horizontal dashed lines for writing.

4 仕様及び付属品

商 品 名	マックスピン・釘打機 パワビット II	
商 品 記 号	CT-N300	
打 込 方 式	連続打撃方式	
バルブ機構	ヘッドバルブ方式	
ピン(又はネイル)送り機構	マニュアル式フィードピストンエア送り方式 (2度送り防止機構付)	
マガジン形式	マガジンキャップ開閉方式	
寸 法	(H) 375 × (W) 88 × (L) 225mm	
重 量	2.3kg	
ピン(又はネイル)装填数	50本	
使用空気圧範囲	6~8kgf/cm ² (0.59~0.78MPa)	
使用ホース	内径7mm以上、長さ20m以内	
使用オイル	タービン油1種ISO VG32 (JIS1号90番)	
安全装置	メカニカル方式、	
付 属 品	部 品	アタッチメント B アタッチメント C
	工 具	六角棒スパナ3・4、特片ロスパナ8、ポンチ06
	その他	保護メガネ、ジェットオイラ (油入)

〔オプションパーツ (別売部品) について〕

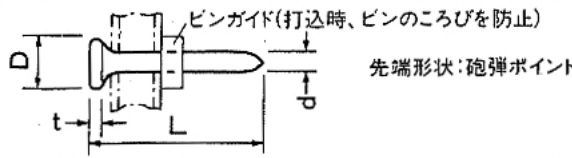
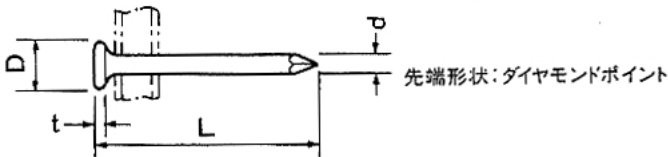
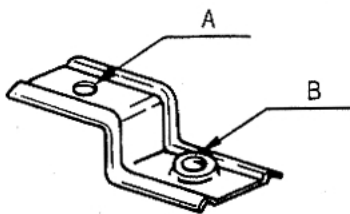
軽天用Z金具を止める為のアタッチメントをオプションパーツとして用意しております。
軽天用Z金具を止める際は別途アタッチメントZとご用命ください。



【使い方】

- ①アタッチメントZを本機に取り付けます。
(15~16ページ「5ご使用の前に」参照)
- ②本機にピンCP-C830W8又はCP-C835W8を装填します。
- ③軽天用Z金具Z3/8 (受注生産品) をアタッチメントZに装填 (マグネットで保持します。) し、天井に打ち付けます。

<使用ピン・ネイル・Z金具>

種類	名称	用途	サイズ				
ピン	プラシート コイルピン	間仕切りランナー 止め等、薄鋼板の コンクリートへの 取付け					
			製品記号	L(mm)	D(mm)	t(mm)	d(mm)
			CP-C822W8	22	φ8	2	φ3.8
			CP-C825W8	25	φ8	2	φ3.8
			CP-C830W8	30	φ8	2	φ3.8
			CP-C835W8	35	φ8	2	φ3.8
			CP-C840W8	40	φ8	2	φ3.8
			CP-C852W8	52	φ8	2	φ3.8
ネイル	プラシート コイルネイル (コンクリート用)	胴縁止め等、木材 のコンクリートへ の取付け					
			製品記号	L(mm)	D(mm)	t(mm)	d(mm)
			CCP27V9-H(コンクリート)	27	φ6.5	1	φ2.9
			CCP32V9-H(コンクリート)	32	φ6.5	1	φ2.9
			CCP38V9-H(コンクリート)	38	φ6.5	1	φ2.9
			CCP45V9-H(コンクリート)	45	φ6.5	1	φ2.9
			CCP50V9-H(コンクリート)	50	φ6.5	1	φ2.9
			CCP60V9-H(コンクリート)	60	φ6.5	1	φ2.9
			CCP65V9-H(コンクリート)	65	φ6.5	1	φ2.9
			CCP32W4-H(コンクリート)	32	φ7.4	1.5	φ3.4
			CCP38W4-H(コンクリート)	38	φ7.4	1.5	φ3.4
			CCP50W4-H(コンクリート)	50	φ7.4	1.5	φ3.4
			CCP27W8-H(コンクリート)	27	φ7.7	1.5	φ3.8
			CCP38W8-H(コンクリート)	38	φ7.7	1.5	φ3.8
			CCP50W8-H(コンクリート)	50	φ7.7	1.5	φ3.8
CCP65W8-H(コンクリート)	65	φ7.7	1.5	φ3.8			
軽天用 Z金具	軽天用Z金具 (受注生産品)	軽天用Z金具止め					
			製品記号	A(mm)	B(mm)		
			Z 3/8	φ5.3 (穴)	W 3/8 (メネジ)		

5 用途とピン、ネイル選定基準

本機の用途には次のようなものがありますが、打込対象部材に合わせたピン、ネイルの選定と足長さの選定をしてご使用ください。

用途	種類	サイズ (足長さ)																
薄鋼板のコンクリートへの取付け 例：間仕切りランナー止め	ピン	<p>コンクリートへの貫入量が20～25mm程度になる様に選定してください。</p>																
木材のコンクリートへの取付け 例：胴縁止め	ネイル	<table border="1" data-bbox="965 857 1356 1025"> <tr> <td>アタッチメントB</td> <td>アタッチメントC</td> </tr> <tr> <td>5～7mm沈む</td> <td>0～1mm沈む</td> </tr> </table> <p>コンクリートへの貫入量が15～20mm程度になる様に選定してください。</p> <p>参考例</p> <table border="1" data-bbox="598 1350 1248 1608"> <thead> <tr> <th>木材厚さ</th> <th>ネイル選定長さ</th> <th>コンクリートへの貫入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27mm</td> <td>38mm</td> <td>約16～18mm</td> </tr> <tr> <td>30mm</td> <td>45mm</td> <td>約20～22mm</td> </tr> <tr> <td>45mm</td> <td>60mm</td> <td>約20～22mm</td> </tr> </tbody> </table>	アタッチメントB	アタッチメントC	5～7mm沈む	0～1mm沈む	木材厚さ	ネイル選定長さ	コンクリートへの貫入量	27mm	38mm	約16～18mm	30mm	45mm	約20～22mm	45mm	60mm	約20～22mm
アタッチメントB	アタッチメントC																	
5～7mm沈む	0～1mm沈む																	
木材厚さ	ネイル選定長さ	コンクリートへの貫入量																
27mm	38mm	約16～18mm																
30mm	45mm	約20～22mm																
45mm	60mm	約20～22mm																

⚠ 警告

●ネイルを薄鋼板のコンクリートへの取付けに使用しない。

ネイルを薄鋼板のコンクリートへの取付けに使用しますと、ネイルがはねたり、曲り易く危険ですので薄鋼板のコンクリートへの取付けには必ずピンをご使用ください。

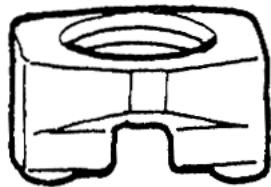


6 ご使用の前に

打込対象部材に合わせ、ピン、ネイルの選定をしましたら、その用途に合わせた、アタッチメントの取付け、及び、長さに合わせてマガジンの調整をしてください。

⚠ 警告

- アタッチメントの取付け、及び、長さに合わせてマガジンの調整を行う時は、本機とエアコンプレッサを接続しない。

【アタッチメントの選定取付け】

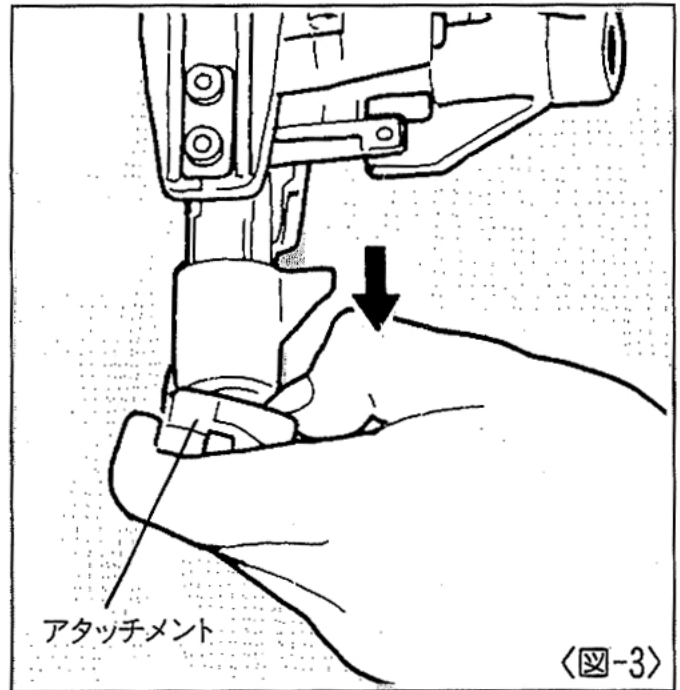
用途	使用アタッチメント	使用消耗品
薄鋼板のコンクリートへの取付け 例： 間仕切りランナー止め	アタッチメントA  (注)ご購入時、セットされておりますので取替えは不用です。	ピン
木材のコンクリートへの取付け 例：胴縁止め	アタッチメントB 釘の頭が、木材表面より5~6mm沈みます。  アタッチメントC 釘の頭が、木材表面よりわずかに沈みます。  (注)ご購入時、付属品として入っておりますので、交換してください。(交換は、次ページに従ってください。)	ネイル

【アタッチメントの交換方法】

手順

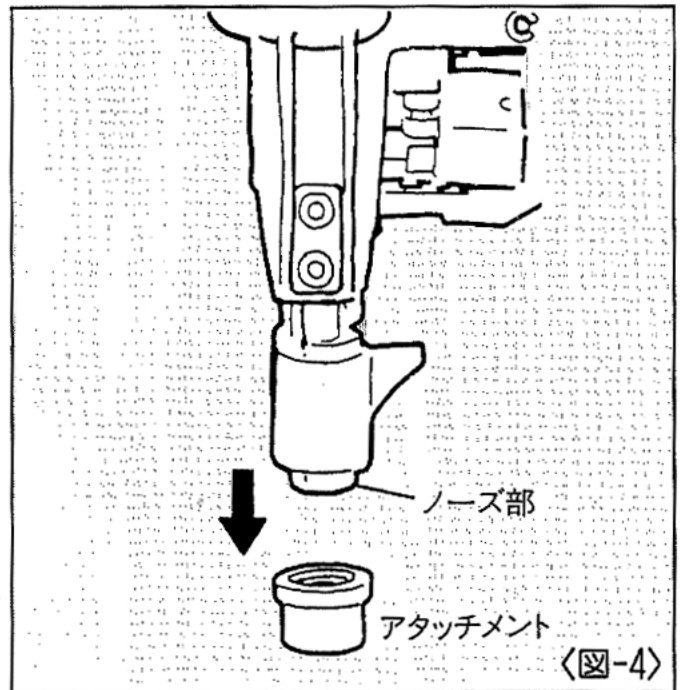
①アタッチメントをはずします。

コンタクトアームを引き上げて取付けられていたアタッチメントをこじる様に引き抜きます。 〈図-3〉



②アタッチメントを取付けます。

選定したアタッチメントを下に置き、本機のノーズ部を差し込み、押し付けて挿入します。 〈図-4〉



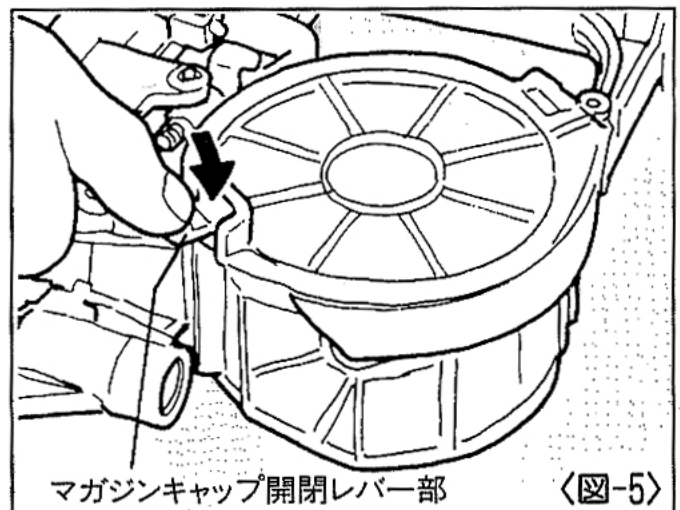
【マガジンの調整】

マガジンの高さが、ピン（又はネイル）の長さに合わせ3段階に調整できる様になっております。ピン（又はネイル）の長さに合わせ、次のマガジンの高さ調整をしてください。

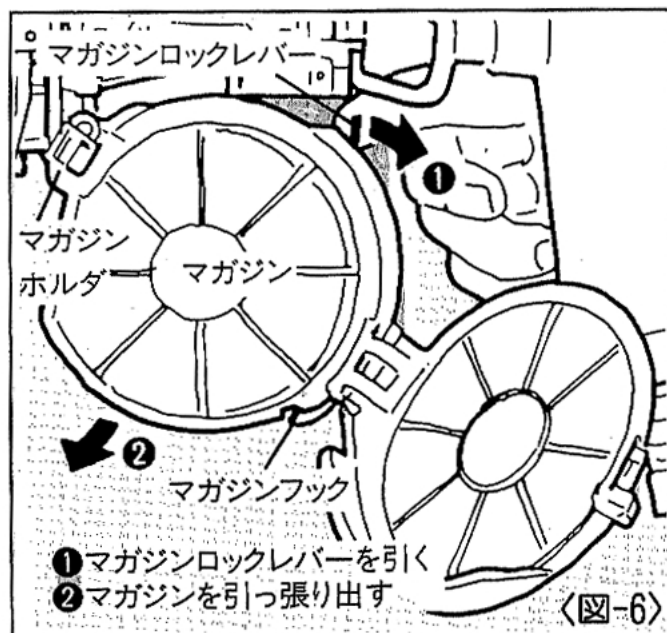
※購入時は22～30mm用の位置にセットされております。

手順

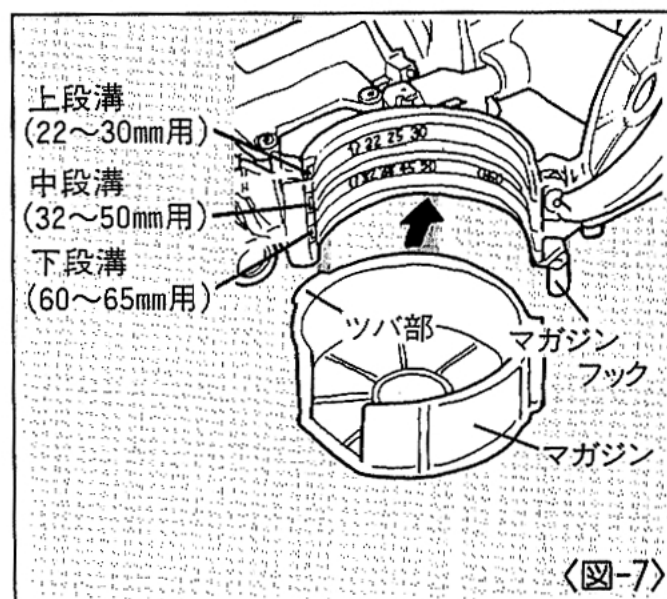
①マガジンキャップ開閉レバー部を押し、マガジンキャップを開きます。 〈図-5〉



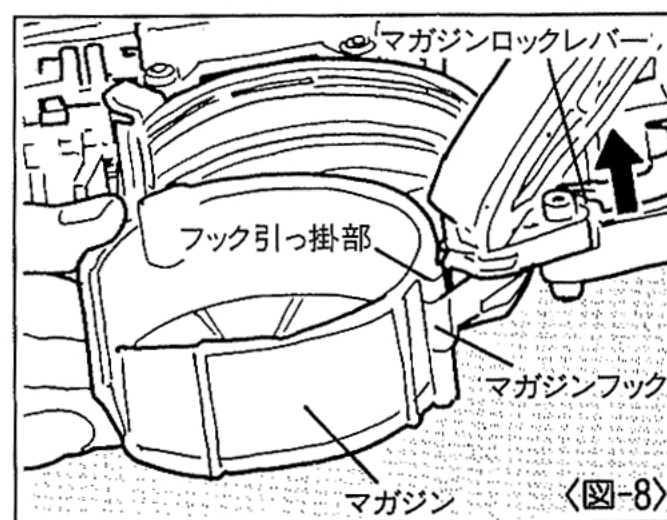
- ②マガジンロックレバーを引いて、マガジンよりマガジンフックをはずし、マガジンを手前に引いてはずします。〈図-6〉



- ③ご使用されるピン（又はネイル）の長さに合わせ、マガジンのツバ部をマガジンホルダの溝に差し込みます。〈図-7〉



- ④マガジンのフック引っ掛部にマガジンフックを掛け、マガジンロックレバーを押してマガジンを固定します。〈図-8〉



7

使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

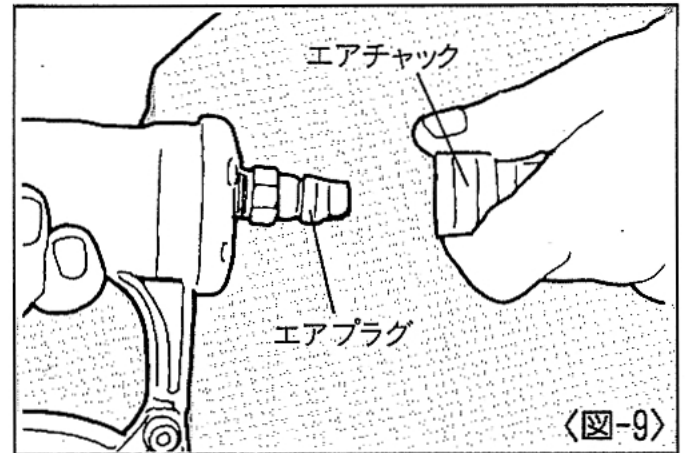
【ピン(又はネイル)の装填方法】

手順

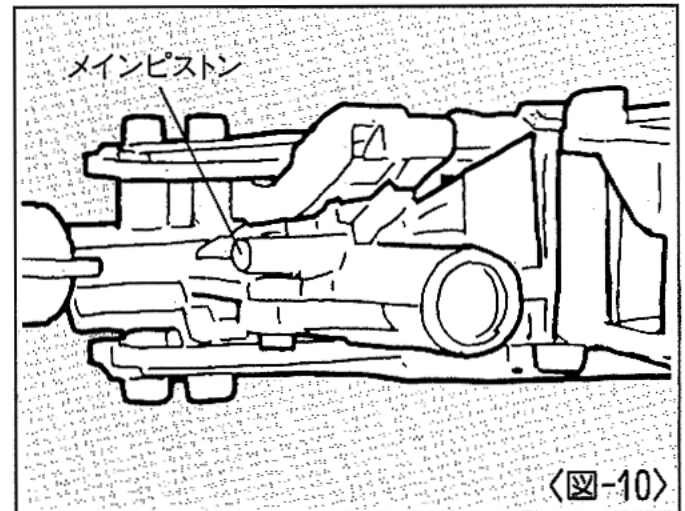
- ①エアプラグにエアホースのエアチャックを接続し、コンプレッサのスイッチをONにします。〈図-9〉

⚠ 警告

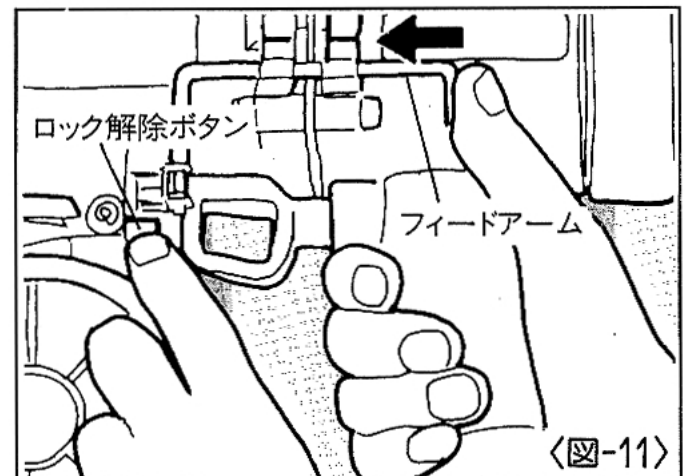
- エアホースを接続する時は、射出口を人体に向けたり、トリガに指をかけたりしない。



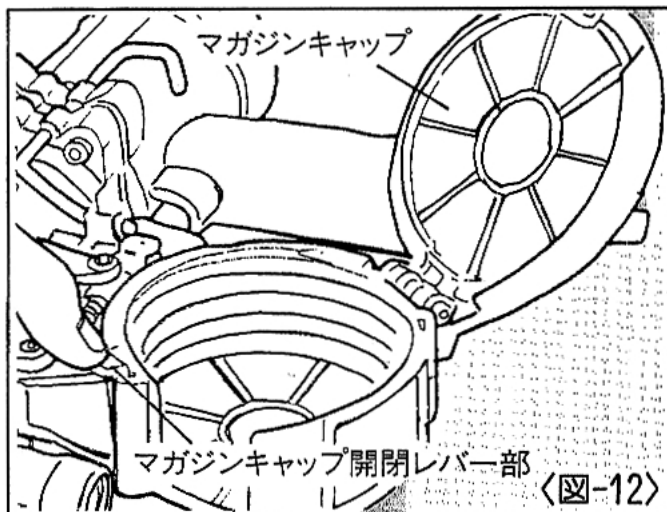
- ②ロック解除ボタンを押した状態でフィードアームを押します。(これでメインピストンが上死点位置に戻った状態になります。) 〈図-10〉〈図-11〉



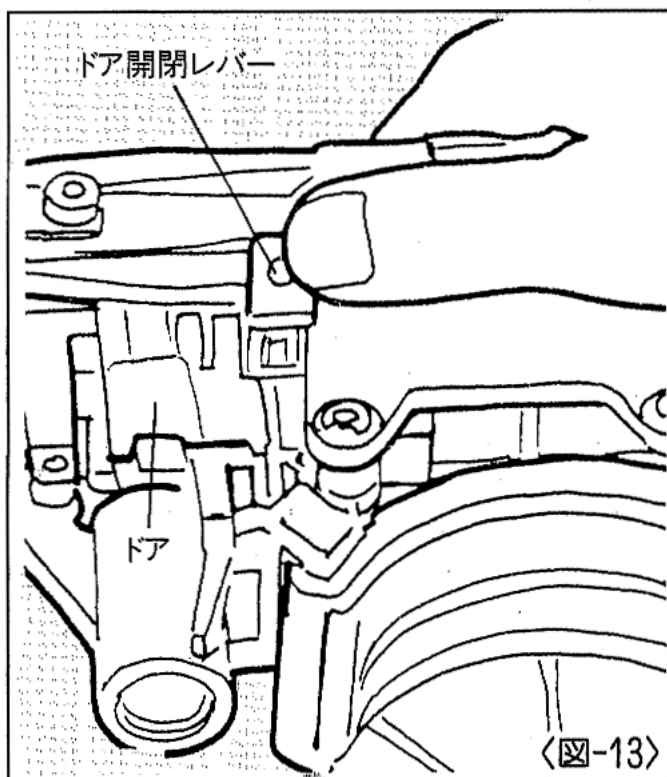
- ③エアチャックをエアプラグよりはずします。



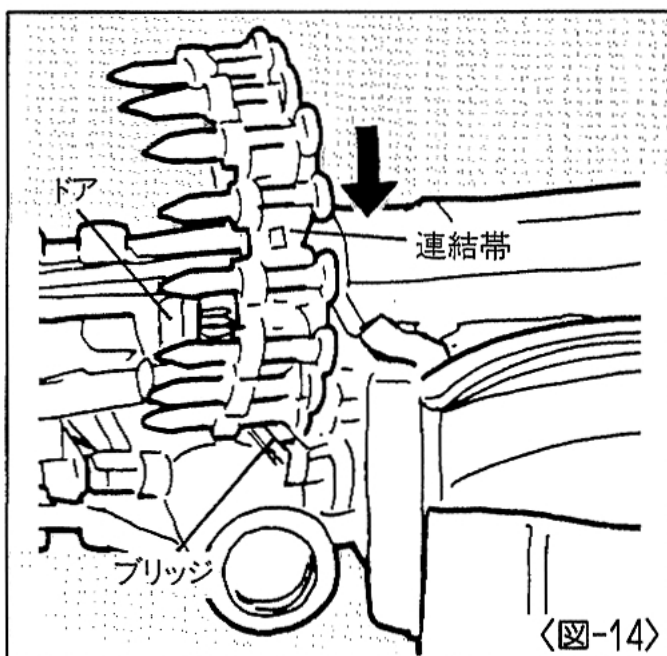
- ④マガジンキャップ開閉レバー部を押し、マガジンキャップを開いた状態にしてピン（又はネイル）を入れて、連結帯の先端を引く出しておきます。 〈図-12〉



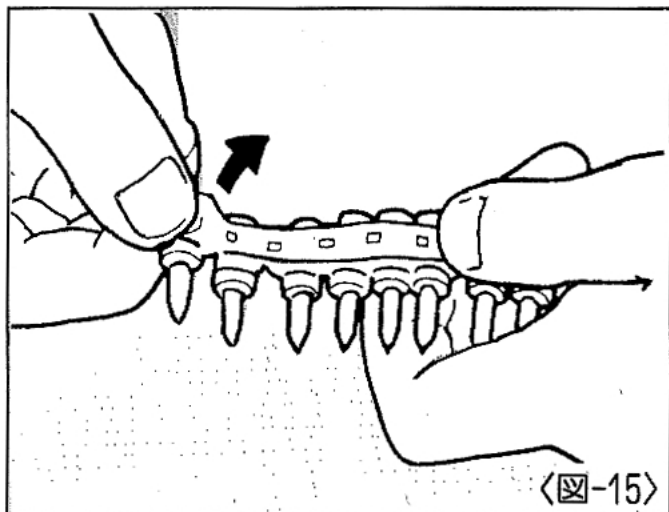
- ⑤ドア開閉レバーを押し、ドアを開きます。 〈図-13〉



- ⑥ピン（又はネイル）の連結帯をブリッジに添わせて押し込みます。押し当った位置で止めます。 〈図-14〉



※連結帯の先端部を少し起す様にしておいてから、押し込みますと更に押し込み易くなります。〈図-15〉



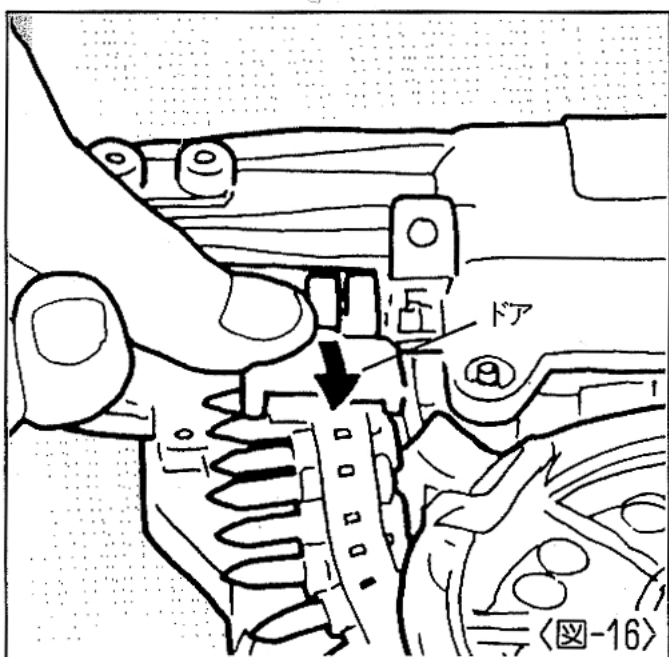
⑦ドアを指で押し、閉めます。 〈図-16〉

※ドア開閉レバーがカチッと音がするまで強く押してください。

⑧マガジンキャップを閉めます。

⑨これで、エアプラグにエアチャックを接続すれば打込準備完了です。

※本機よりピン（又はネイル）を取り出す時は、ロック解除ボタンを押した状態でフィードアームを押し、メインピストンが戻った状態（図-10参照）にしてから、エアチャックをはずし、ドアを開け、連結帯を引き出してください。



【打ち方】

手順

- ①ピン（又はネイル）装填後1打目は、打ち込み箇所にコンタクトアームの先端（アタッチメント）を垂直に強く押し当て、トリガを引いた状態にします。ピン（又はネイル）の頭を連打して打ち込みます。

〈図-17〉

※1.打ち込みの際、エア圧力を7kg f/cm²（0.69MPa）で作業を行なってください。打ち込み時間も早く、エア消費量も少なくて済みます。

※2.打ち込みが足りない時は、1度トリガを放し、浮いたピン（又はネイル）に再度ノズを差し込みトリガを引けば増し打ちができます。

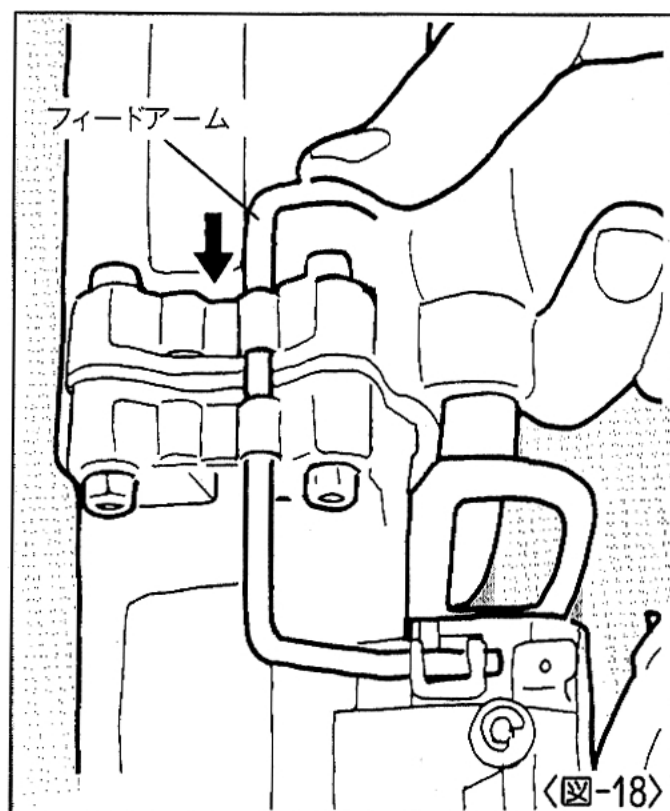
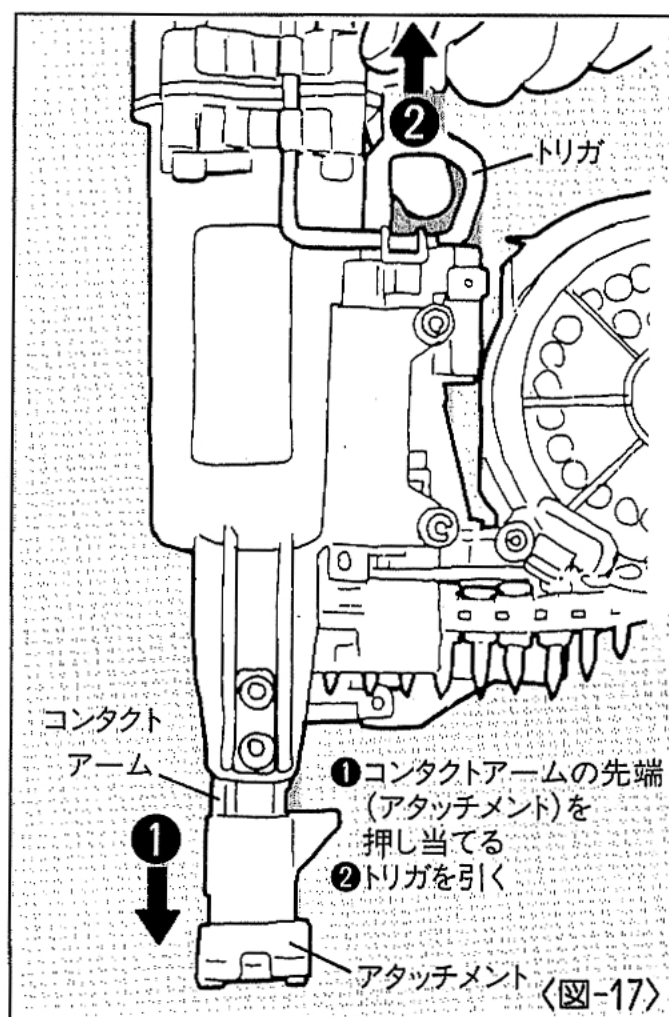
- ②2打目からはフィードアームを押します。2本目のピン（又はネイル）が送られます。あとは1打目と同様の打ち方をします。

〈図-18〉

※1.フィードアームは最後までしっかりと押してください。押し方が不完全ですと送り不良の原因になります。

※2.本機のピン（又はネイル）送りは2度送り防止機構となっておりますので、フィードアームを1度押すとロックがかかり、連続してフィードアームは押せません。もしカラ送りになっている場合は、ロック解除ボタンを押してフィードアームを押してください。

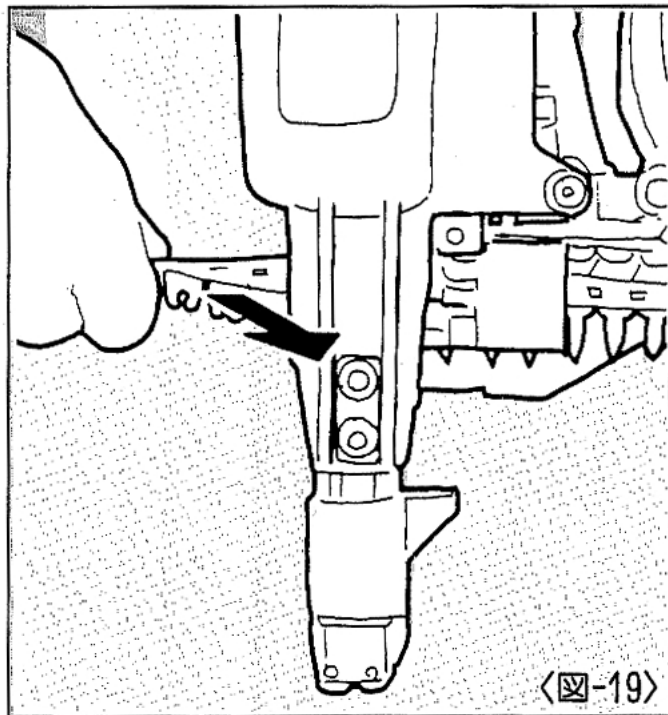
（図-11参照）



【プラスチック連結帯の切り方】

ピン（又はネイル）を打っていますとノーズよりプラスチック連結帯がでてきますので→の方向に引きちぎってください。

〈図-19〉



【排気方向の変え方】

排気リングを手で回すことにより、排気方向を変えることができます。

〈図-20〉



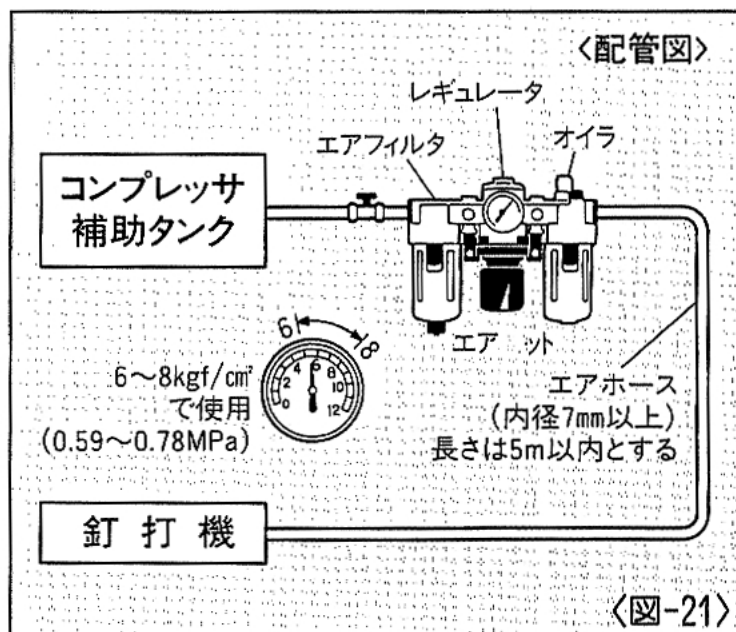
8 配管についての注意

⚠ 警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- ①動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス(例：酸素、アセチレン等)は絶対に使わないでください。
- ②エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- ③エアホースは内径7mm以上、長さ20m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ5m以内で使用してください。

〈図-21〉



9 エアホースの接続

⚠ 警告

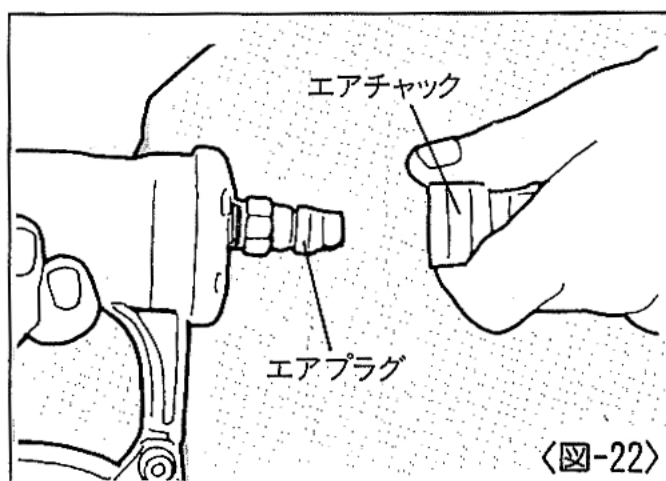
●エアホース接続の時は必ず厳守する。

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

- 1.トリガに指をかけない。
- 2.コンタクトアームに触れない。
- 3.コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
- 4.射出口を人体に向けない。

手順

- ①エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。 <図-22>



⚠ 警告

- 作業中断時は必ずエアホースをはずす。

10 ピン、ネイルづまりの直し方

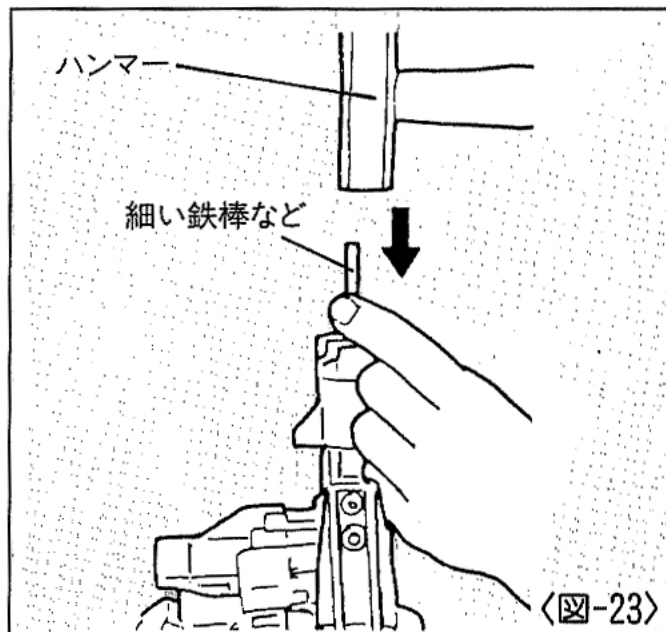
⚠ 警告

- ピン（又はネイル）づまりを直す時は必ずエアホースをはずす。

手順

- ①エアホースをはずします。
- ②ピン（又はネイル）をマガジン内より抜き取ります。
- ③ドアを開き、射出口より付属品のポンチ06を入れ、ハンマーでたたきます。

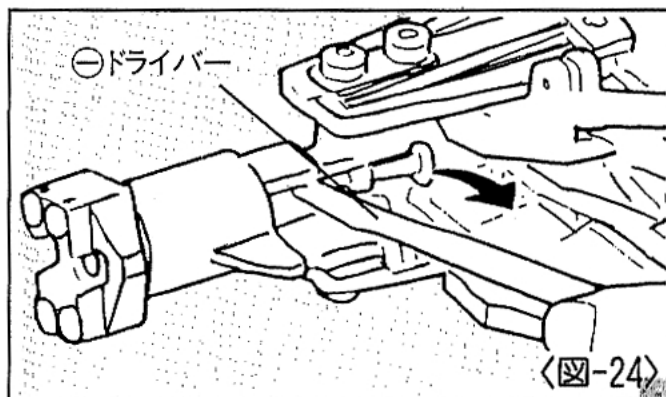
〈図-23〉



- ④ノーズ内部につまったピン（又はネイル）を細い鉄棒や⊖ドライバーで取り除きます。

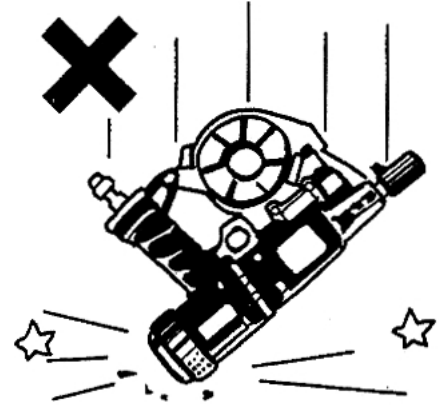
〈図-24〉

- ⑤ピン（又はネイル）を再度確実にセットして、ドアを閉じます。



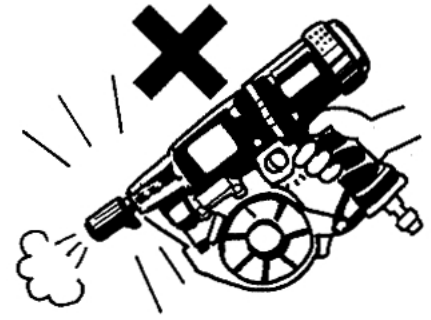
①本機を大切に使う

落したり、ぶついたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶついたり、叩いたりしないでください。



②カラ打ちをしない

ピン（又はネイル）を装填しないでカラ打ちをくり返し行くと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。



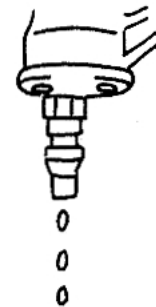
③エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。



④本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。



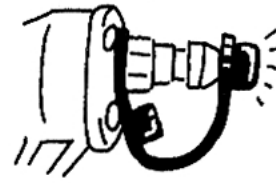
⑤指定オイルを注油する

オイルはタービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2～3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



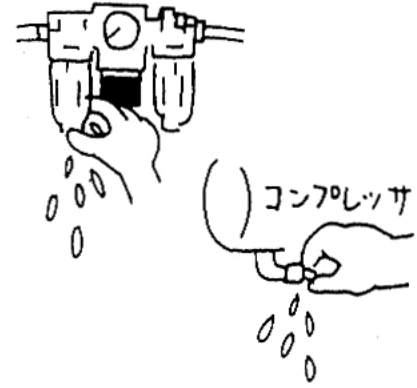
⑥エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。



⑦エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。



⑧定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱にお申しつけください。

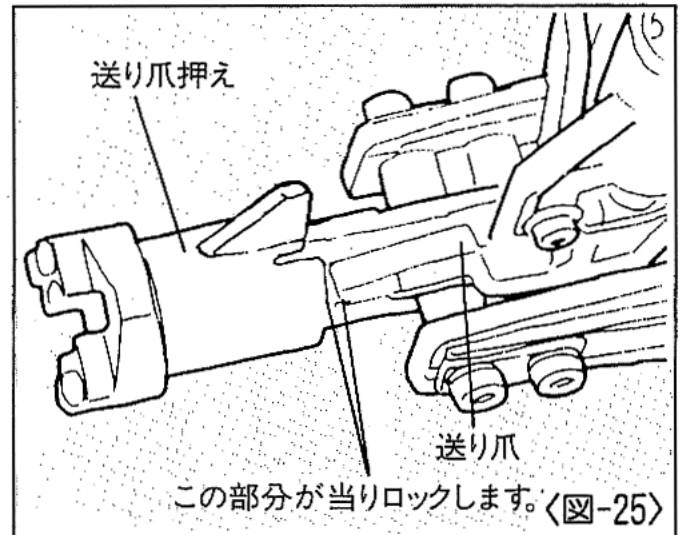
12

トラブル時の確認事項

- 正規の打込作業をしても、本機が作動しない。

本機は、ピン（又はネイル）の送り不良の際、作動しないロック機構となっております。（送り爪が完全に出ていないと送り爪と送り爪押えが当り、打込作業ができない構造となっております。〈図-25〉送り爪が適正な位置にない時はピン（又はネイル）を1度はずし、再セットし直してください。

上記作業を行なっても直らない場合には、お買い求めの販売店またはマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。



- 正規の打込作業をしてもカラ打ちになる。

作業中に本機は作動するがピン（又はネイル）が実際に打ち込まれない場合には、下記の事を点検してください。

- ①ピン（又はネイル）の送り操作をしたか（フィードアームを押したか）。
- ②ピン（又はネイル）がノーズ内にきちんとセットされているか。
- ③ピン（又はネイル）がプラシートより脱落していないか。
※この場合、カラのプラシートを切断してピン（又はネイル）を再セットしてください。
- ④送り爪とフィードピストンが作動しているかどうか。
〔ピン（又はネイル）を装填しないで、ロック解除ボタンを押した状態でフィードアームを押し、作動確認してください。〕
※作動していない場合は、エアプラグから2～3滴注油してください。

上記①②③④を確認してもカラ打ちが直らない場合には、お買い求めの販売店またはマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

13

保証、アフターサービス、補修用性能部品について

【保証について】

- 本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 本機の基本保証期間はご購入日より1年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

【アフターサービスについて】

- 本機の調子が悪いときは、使用を中止して、お買い求めの販売店又はマックスサービス(株)にご相談ください。
- 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

【補修用性能部品の最低保有期間】

- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
- 補修用性能部品とは、本機の性能を維持するために必要な部品です。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。



本社・営業本部	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8121(代)
札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 261-7141(代)
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 236-4121(代)
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03) 3669-8118(代)
名古屋支店	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL (052) 935-8531(代)
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06) 6444-2031(代)
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-6331(代)
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL (092) 411-5416(代)
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-3	TEL (019) 621-3541(代)
宇都宮営業所	〒321-0933	宇都宮市築瀬町2313	TEL (028) 636-3012(代)
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297-12	TEL (04) 7132-1500(代)
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町5-17-19	TEL (042) 528-3051(代)
浜松営業所	〒433-8117	浜松市高丘東2-22-15	TEL (053) 439-3300(代)
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町3-24	TEL (099) 269-5347(代)
新潟マックス(株)	〒955-0081	三条市東裏館2-14-28	TEL (0256) 34-2112(代)
水戸マックス(株)	〒310-0043	水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL (029) 255-3761(代)
群馬マックス(株)	〒371-0844	前橋市古市町233-5	TEL (027) 210-7755(代)
埼玉マックス(株)	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 651-5341(代)
千葉マックス(株)	〒284-0001	四街道市大日1870-1	TEL (043) 422-7400(代)
横浜マックス(株)	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045) 364-5661(代)
長野マックス(株)	〒399-0033	松本市笹賀8155	TEL (0263) 26-4377(代)
長野営業所	〒381-2247	長野市青木島1-35-1	TEL (026) 285-6740(代)
静岡マックス(株)	〒422-8036	静岡市敷地1-3-26	TEL (054) 237-6116(代)
金沢マックス(株)	〒921-8061	金沢市森戸2-15	TEL (076) 240-1871(代)
富山営業所	〒930-0827	富山市上飯野字樋向割10-8	TEL (076) 452-0182(代)
福井営業所	〒918-8237	福井市和田東2-1711	TEL (0776) 27-3378(代)
京滋マックス(株)	〒612-8414	京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL (075) 645-5061(代)
兵庫マックス(株)	〒652-0832	神戸市兵庫区鍛冶屋町2-1-2	TEL (078) 652-7370(代)
三木営業所	〒673-0404	三木市大村109-1	TEL (0794) 83-2121(代)
岡山マックス(株)	〒700-0971	岡山市野田3-23-28	TEL (086) 246-9516(代)
四国マックス(株)	〒761-8056	高松市上天神町761-3	TEL (087) 866-5599(代)
徳島営業所	〒770-0866	徳島市末広1-4-25	TEL (088) 623-0286(代)
松山営業所	〒790-0951	松山市天山2-1-35	TEL (089) 913-0608(代)
マックスサービス(株)札幌	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL (011) 231-6487(代)
マックスサービス(株)仙台	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL (022) 237-0778(代)
マックスサービス(株)高崎	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL (027) 350-7820(代)
マックスサービス(株)埼玉	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL (048) 667-6448(代)
マックスサービス(株)名古屋	〒461-0025	名古屋市東区徳川1-11-23	TEL (052) 935-8210(代)
マックスサービス(株)大阪	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06) 6446-0815(代)
マックスサービス(株)広島	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL (082) 291-5670(代)
マックスサービス(株)福岡	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL (092) 451-6430(代)

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-228-358
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。